

## 第5回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年9月8日（日） 午後1時30分～午後4時00分

場 所：市役所西別館3階会議室

### 【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、丹羽委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、勢古委員、向井委員、上路委員、片山委員（順不同）

### 【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

図書館：道前係長

### <会議次第1. 前回打合せ内容の確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

### <会議次第2. 配置・平面計画について>

設計者より、資料2-1、資料2-2に基づき配置・平面計画について説明

#### 【設計者】

図書館棟1階では共用空間を減らし、図書館のバックスペース充実させた。

総合事務室と図書館事務室を分けた配置にした。内部のレイアウトはパーティションによって作り変えられるようにゆったりとスペースを確保している。

図書館2階の整理作業室を広くして40㎡程度確保した。その分学習室を1階に配置し、開架スペースを以前と変わらない面積を確保した。

熊野学センターのトイレについて、屋外の熊野ひろばからも使えるところに配置した。

熊野ひろばに隣接して光の入らない展示スペースを計画した。

バス駐車場は、測量による敷地形状に合わせて5台から4台に変更している。

車両動線については、立体駐車場の出入口は交通状況を考慮して2カ所設けた。

#### 【委員】

前回案を元に、図書館についての要望等を事前に提出した。項目は次のとおり。

- ・事務室は総合事務室ではなく整理作業室と一体となった独立した事務室を希望する。

- ・様々なボランティア活動が行われているので独立したボランティアルームを希望する。
- ・北側の出入口の風が気になるため、北風対策をして欲しい。
- ・人がいるカウンターと自動貸出機の利用率の割合は一般的に3:7と言われており、圧倒的に自動貸出機を使う人が多い。自動貸出機を設置して欲しい。
- ・お知らせやポスターを掲示する場所が欲しい。
- ・大型本の閲覧棚と閲覧席が欲しい。
- ・拡大お話し会など、小ホールでは大きすぎる規模のイベントを行うのに相応しい中規模程度の大きさの部屋が欲しい。
- ・一般図書と児童書のカウンターを一緒にすることはできないのか。
- ・窓に関して、日差しや紫外線対策はどうしているのか。
- ・自動化書庫はイニシャル・ランニングコスト共に集密書架よりもかかるが、長い目で見た時の費用対効果を考えればメリットがあると考えている。自動化書庫を導入できないのであれば、1階書庫と2階整理作業室を直接つなげる動線が必要である。

**【委員長】**

県立図書館のような大きな図書館には自動化書庫が入っている場合があるが、イニシャルコストも膨大にかかるため、今回の計画では難しいのではないだろうか。

**【委員】**

最近では小・中規模の図書館での自動化書架の導入も増えており、2万冊の蔵書で導入している例がある。

**【設計者】**

様々な図書館を見てきたが、自動化書庫もクリーニング等で必ず人の手が必要なため人件費がかかってしまう。採用は現段階では難しいのではと考える。

**【設計者】**

1階の図書館事務室と2階の整理作業室をつなげるDW（ダムウェーター）を設置し、本の移動に配慮した。同時に2階の整理作業室を40㎡確保し、開架エリアのスタッフの作業スペースに配慮した計画とした。水害を考慮して閉架書庫の入口は1箇所限定し、通常時は閉架書庫と整理作業室を一体利用出来る計画としている。

**【委員】**

最近、子どもの声で迷惑がる高齢者も減ってきているように感じるため、大人のスペースと子供のスペースが共存していても良いのではないかと考える。

絵本コーナーに子育てコーナーを作るなど連帯した作りにするのはどうか。

**【設計者】**

日射対策としては、北・南面に関しては川等の眺望に対しては開放的に開きつつも庇を出し、直達光がこない計画としている。西側と東側は庇では制御できないので、壁にした遮光のデザインを検討していく。

**【委員長】**

総合事務室 1 つで 3 つの機能を管轄することに問題はないのか。

**【設計者】**

図書館は個人情報を取扱うところでもあるのでセキュリティには十分配慮した計画とする必要があるが、一体の事務室としても問題はないと考えている。

**【委員】**

ボランティア室とサポーターラウンジの使い分けを聞きたい。

川の眺望を考えてカフェは川が見える場所に配置するのが良いのではないのか。

**【設計者】**

カフェについては本の汚損や会話など運営上の課題もあるので、今回は 2 階への配置を避けている。カフェ配置は屋外カフェテラスから 2 階に上って川が望める計画としているとともに、市民の活動や交流場所の近くに配置している。

**【委員】**

図書館の上下をつなぐ動線が南側のエレベーターしかないため、遠くないか気がかりである。

絵本コーナーが奥にあるが、司書の目が行き届くか心配である。

和室ではお茶会等の利用が考えられるが水回りはどうなっているのか。

**【委員】**

図書館棟 1 階入口が殺風景でないか気がかりである。駐車場からの動線も寂しいのではないだろうか。カフェの位置は再考すべきである。

**【委員】**

学習室の位置は使い勝手や管理を考慮すると 1 階で良いのか。

**【委員】**

本の側に学習室がある方が通常の在り方だと思うが、現在の配置は離れた関係となっている。職員の作業動線に無駄があるように感じる。

**【委員】**

図書館棟 1 階を部屋に小分けし過ぎている印象を受けた。

2 階のアイランド式のカウンターはどのぐらいの人数配置を想定しているのか。

**【委員】**

図書館棟 1 階の部屋数が多すぎて分かりにくい。

2 階は子供に目が行き届く位置に絵本コーナーを配置した方が良いのではと考える。

おはなしの部屋がどのようなものかイメージをしにくい。

トイレが熊野学アーカイブの分も兼ねていることを考えると小さいし、熊野学アーカイブからは遠くないか。

**【委員長】**

総合事務室自体には賛成であるが、位置が図書館棟 1 階で良いかは疑問である。

**【設計者】**

この程度の規模の複合施設で館長や運営が複数いる場合は施設としてのまとまりがなく失敗している例が多いため、総合事務室には賛成である。人員配置を先行して決定し、その中で事務室とサテライトカウンターの連帯性を検討していくことが望ましいと思う。

**【委員】**

面積配分として小さい様を感じる。収蔵・展示機能を持つ施設として最低限の基準を満たしたものを作って欲しい。収蔵庫が 100 m<sup>2</sup>しかないのは小さく感じる。

**【委員】**

最近熊野本宮館の様に映像を使った展示も多く見られるが、取り入れていくのか。

**【委員】**

サポーターラウンジが奥まった位置にあるため、観光客等に説明する人たちの配置が想像しづらい。2階の熊野学アーカイブにトイレがないのが気がかりである。

**【設計者】**

トイレの配置については今回の規模に対してそこまで遠いと感じない配置にはしている。

**【委員】**

屋外と屋内の熊野ひろばの連携の仕方がイメージしにくい。建物の正面となる顔が分かりにくい。どういった展示をするかが不明確である。

**【委員】**

市民や子供、観光客がここにくれば熊野学が分かるという展示スペースを作って欲しい。

**【委員】**

「木と食のアトリエ」のような交流機能が熊野学棟にあれば良いと思う。

総合事務室は熊野学棟に配置した方が良いのではないだろうか。

**【設計者】**

熊野学センターは展示とアーカイブ機能に特化した方がアイデンティティを強めるのではないかと思い、「木と食のアトリエ」を図書館棟に配置した。又、市民活動ゾーンとして図書館棟 1階に活動スペースを集約することで賑わいを感じられるように計画している。

**【委員】**

学術も観光もその時代に応じて変化していくものなのでいつの時代でも対応できる自由度の高いものであって欲しい。

**【委員】**

熊野学棟のレファレンスカウンターの位置は階段から上がってすぐの場所ではない方が良いのではないか。

**【設計者】**

図書館と熊野学アーカイブが離れているようにとらえられがちだが、渡り廊下でつながったあくまで一体空間である。熊野学アーカイブは他の図書館にはない特徴であるため、きちんとした配員計画を考えて欲しい。

**【委員長】**

48 億円・8000 ㎡という枠内に収まることも念頭に置きつつ設計を進めて欲しい。

**【設計者】**

なるべく余分なコストがかからないよう、建物の骨格を決定している。

ただし、最近の建設費高騰を考慮すると 8000 ㎡でも予算内に納めるのはハードルが高いと考えている。

**【委員長】**

今回の検討委員会にて図書館棟と熊野学棟の配置や機能について決定する。設計者は今回出た意見の取捨選択し、反映した図面を提出すること。

**【設計者】**

前回まではホワイエ側にスタジオを配置していたが、小ホールとホワイエとの一体性が削がれているとの意見を受け、スタジオと小ホールの位置を逆にした案を考えてきた。この案ではホール利用者もリハーサルでスタジオを使用するなどホールの利便性も高めることが出来ている。

### **<会議次第 3. 市民ワークショップについて>**

**【設計者】**

全体的なプランに関して、和室や屋外熊野ひろばからのトイレの利用に関して意見があったが、今回提示しているプランに反映している。

**【委員】**

ワークショップでの意見が全て取り入れられるわけではないということを市民が理解しているかが懸念事項である。

**【設計者】**

今回のワークショップではホールを中心とした議論展開を予定している。

ステップ 3 では市民会館が使えない 3 年間でどうプラスにつなげていくかを議論するのはどうかと考えて入れてみた。

**【委員】**

3 年間は使えないと決まった今、その間どう対策を講じるかをみんなで話し合えるのは良いと思う。

**【委員】**

ここで議論にあがったことや要望を行政として対応できるのかが不安である。

**【設計者】**

第 5 回ワークショップでは、どのように資料に触れたり集めたり出来るかを体感してもらい、施設とまちと資料をどのように繋いでいくかを考えていくものと考えている。

ちずぶらりやイメージファインダー、まちじゅう図書館の事例を紹介し、その後まち歩

きを行い発見したものをみんなでディスカッションし、新しく出来る複合施設をもっと活きるものにしていくワークショップを考えている。

**【委員長】**

最近オープンデータを観光に活用しているケースがよく見られる。熊野学ともリンクするようにできると良いのではと考える。

**【委員】**

まちぶらをするために、それぞれの資料の所在を把握する必要がある。同時にその資料を保管する場所も必要である。わかりやすく熊野を伝えられる映像ができることに期待する。

**【委員】**

年配の方も多いので、そういった方への配慮が必要である。

**【委員】**

外の業者に委託してしまうのではなく、IT技術を使える人を育成し、その人たちが展開していけるようなものであるべきである。

**【委員】**

Iターンの人たちでIT技術にたけている人もいるので、そういった人たちを巻き込んで協力していければと思う。

**【委員】**

若い人を巻き込む手段としては良いと考える。地図に美味しい食べ物を出している場所をプロットするなどの展開をしていくのはどうかと考えた。

**【委員】**

地元の人意外と自分たちのまちのことを知らないことが多いので良い機会だと思う。

**<会議次第4. その他>**

次回の第5回基本設計等検討委員会は10/7(水)に行う。

**<閉会>**